

タイトル	虫のお医者さん	
対象年齢	2～5歳児	人形劇、ペープサートなど

<作成の意図>

お話を通して、「思いやり」や「命の大切さ」について考える。

○内容（あらすじ等）

- ・子ども達に乱暴に扱われて怪我をした虫が、虫の病院にやってきます。
- ・虫たちとお医者さんのやりとり（会話）を見て、どう思ったか、生き物の気持ちはどうだったかを子ども達と一緒に考えていきます。

○配慮事項

- ・子ども達の日頃の様子から、ストーリーを作って演じる。
- ・子ども達の言葉を引き出せるよう、問いかけをする。

※シナリオの一例をご照会します。（別紙）



シナリオ 例

お医者さん	みなさん、こんにちは。ここはケガや病気になった虫たちがやってくる虫の病院です。私は虫のお医者さんです。 毎日たくさんの虫たちがやってくるので、とっても忙しいんですよ。 ほらほら、さっそくだれかやってきましたよ。
だんごむし	虫の先生、こんにちは。※元気がない様子
お医者さん	こんにちは。だんごむしさん。きつそうだけど、今日はどうしたの？
だんごむし	おなかと背中が痛くて。あいたたた・・・。
お医者さん	そうなの～。それは大変ですね。さっそく診察してみましょう。 ※聴診器をあてながら・・・ おなかと背中が痛いんですね。 あ～、これは体を丸めたり、伸ばしたりしすぎていますね～。
だんごむし	そうなんですよ～。こどもたちと遊ぶのはとっても楽しいんですが、 いつもいっぱい触られるので、何回も体を丸めたり、伸ばしたりして しまうんですよ。 それに、こどもたちが、僕と遊んだ後、ポイッと僕を地面に捨てたり するから痛くて痛くて・・・。 箱の中に入れてままだまにされることも多いんです。だから、箱から出た くて、一生懸命に体を曲げたり伸ばしたりしてしまうんですよ。
お医者さん	あらあら、それは大変ですね～。痛かったでしょうね。 では、早くよくなるように、お薬をぬりましょうね。 ずいぶん楽になると思いますよ。
だんごむし	先生、ありがとうございました。
お医者さん	早くよくなるといいですね。お大事に。 <こどもたちへ> だんごむしさん、痛そうだったね。 みんなはどう思った？ 〇〇保育所のお友だちもだんごむしさんと遊ぶの大好きだよ。

お医者さん	<p>どんな風にしたらだんごむしさんが痛くないように遊べるかな？ (こどもの意見を調整して) みんなもだんごむしさんに優しくしてね。 等々・・・。</p> <p>あ、また誰かやってきたみたい。</p>
アリ	<p>こんにちは、先生。足がとっても痛いんです。</p>
お医者さん	<p>こんにちは、アリさん。足が痛いんですね。ちょっと見てみましょうね。※聴診器をあてながら あ～これは大変。足が折れていますね。これは痛いでしょう。</p>
アリ	<p>え～っ。足が折れているんですか？ 実は子どもたちに踏まれたんです。それから足がとっても痛くなって・・・。あ～いたい。</p>
お医者さん	<p>それは痛かったですね。かわいそうに。湿布をしておきましょうね。 しばらく動かないようにしておうちでゆっくりしてくださいね。お大事に。</p>
アリ	<p>わかりました。先生、ありがとうございます。おうちに帰ってゆっくりしておきます。</p>
お医者さん	<p><こどもたちへ> アリさん、痛そうだったね。 みんなはどう思った？ アリさんは小さいから、気づかないで踏んでいることがあるかもしれないね。歩くときは気をつけようね。等々・・・。</p> <p>あ、また誰かやってきたみたい。今度はだれかな？</p>
テントウムシ	<p>先生、助けてください。</p>
お医者さん	<p>あら、テントウムシさんどうしたんですか？</p>
テントウムシ	<p>先生、保育園の花壇で遊んでいたら、子どもたちが私を見つけて捕まえたんです。私も子どもたちが大好きだから一緒に遊ぼうと思ってうれしかったんです。でも、キューって握られて、みんなが「見せ</p>

テントウムシ	<p>て見せて」ってどんどん私の体を引っ張ったので、羽が伸びちゃった～。こんな羽では飛ぶことができないんです。</p> <p>飛んで、早くお家に帰りたい。お母さんやお父さんに会いたいのにな飛べないから帰れません。え～ん、どうしたらいいですか？</p> <p>早くお家に帰りたいよ～。</p>
お医者さん	<p>それはそれは大変ね。どれどれ、羽をちょっと見せてください。</p> <p>あらあら、羽がぐちゃぐちゃになっていますね。</p> <p>ちょっと直してみましようね。少し痛いかもしれないけどちょっと我慢してね。※治療する感じで</p> <p>お薬も塗っておきましょうね。</p> <p>さあ。これでどうでしょう。</p>
テントウムシ	<p>よかった～。ぐちゃぐちゃじゃなくなった～。もう飛べないかと思って悲しかったんです。</p> <p>でも、まだ痛いです。あいたたた。動かすと痛いです。</p>
お医者さん	<p>そうね～。痛みが取れるにはもう少し時間がかかりそうですね。</p> <p>今日は、飛ぶのは無理だから、歩いてお家に帰ったほうがよさそうね。</p>
テントウムシ	<p>わかりました。先生、ありがとうございました。</p> <p>今日はゆっくり歩いて帰ることにします。</p>
お医者さん	<p>そうね。それがいいわね。気をつけて、お大事にね。</p> <p>羽の調子が悪かったらまた来てくださいね。</p> <p><こどもたちへ></p> <p>テントウムシさん、痛そうだったね。</p> <p>みんなはどう思った？</p> <p>子どもの意見を聴いて・・・。</p> <p>みんな優しいね等々。</p> <p>さあ、今日はもう患者さん来ないかな？</p> <p>と、思ってたら、またまた誰か来ましたよ。</p> <p>誰かな？</p>
あおむし	<p>虫の先生、こんにちは。先生、僕、体のあちこちが痛くてしょうがないんです。僕はもうすぐさなぎになって蝶々になるんだけど</p>

	<p>こんなに体が痛くては、さなぎや蝶々になれるかどうか心配なんです。大丈夫でしょうか？</p>
<p>お医者さん</p>	<p>そうなんです。ではちょっと診察してみましょう。 ※聴診器を当てて診る あらあら、あちらこちらいっぱい怪我をしていますよ。</p>
<p>あおむし</p>	<p>だって、こどもたちが僕を捕まえようとして、スコップで僕の体をコロコロ転がしたんです。そして捕まえたと思ったら、ポイって地面に捨てたんです。もう僕は目が回るやら痛いやら怖いやら。そして、体がすごく痛くなってきました。 僕、蝶々になれるでしょうか？</p>
<p>お医者さん</p>	<p>大丈夫ですよ。怪我によく効くお薬があるんです。それがこれです。これを塗りましょうね。これを塗っておけば、じきによくなりますよ。よくなったら、ちゃんとさなぎや蝶々になれますよ。安心してくださいね。</p>
<p>あおむし</p>	<p>よかった～。僕とっても心配だったんです。 蝶々になったら、先生にきれいな羽を見せにきますね。 先生、本当にありがとうございました。</p>
<p>お医者さん</p>	<p>たのしみに待ってるね。ゆっくり休んで怪我を治してね。 お大事に。</p> <p>さあ、今日の診察はおしまいにしましょう。 だんご虫さんもアリさんもテントウムシさんもあおむしさんもとっても痛そうだったけど、よくなりそうだからよかったわ。</p> <p>でも、虫さんたちが病院に来なくていいように、みんなも虫さんたちと遊ぶときには気をつけてね。 虫のお医者さんからのお願いです。 では、またね。</p>